

墨の迫力

望月勅雄の生み出す

ふるさとこの色

2020年10月2日[金] ↓ 11月23日[月・祝]



靈山夕照



旧共和郵便局

【会場】身延町なかとみ現代工芸美術館

【主催】身延町、身延町なかとみ現代工芸美術館

【後援】山梨県、山梨日日新聞社、山梨放送、テレビ山梨、エフエム富士、エフエム甲府、朝日新聞社甲府総局、読売新聞甲府支局、

産経新聞甲府支局、毎日新聞甲府支局、国際書画連盟、身延山久遠寺

【協力】墨酔会

身延町なかとみ現代工芸美術館

〒409-3301 山梨県南巨摩郡身延町西嶋345 TEL 0556-20-4555 FAX 0556-20-4557

- 観覧料／一般 300円 (270円) () は20名以上の団体料金、大学生以下無料 (学生証の提示をお願いする場合があります)
- 開館時間／午前9時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日／毎週火曜日 (11月3日(火・祝)は開館)、11月4日(水)

墨の迫力 望月勅雄の 生み出す ふるさとの色

2020年10月2日「金」↓11月23日「月・祝」



ドライブイン



鉄路懐古



老松昔日

水墨画とは、墨で表現される墨絵の様式で、墨による濃淡やぼかし、にしみ、グラデーショなどを用いて描かれた絵画のことです。

水墨画の世界で活躍する画家の1人が、望月勅雄先生(雅号・勅夫)です。勅雄先生は、昭和5(1930)年に身延町に生まれました。平成3(1991)年に郵便局を退職後に水墨画を始め、地元を中心に個展を開き、数々の賞を受賞するとともに、講演を開いて水墨画の魅力を広めるなど、精力的に活動をしています。

今回の展覧会では、身延町内を中心にみのお道沿いを描いた作品をはじめ、身延山や木喰仏などを描いた作品を展示いたします。「失われゆくものが、忘れ去られないように記録のつもりで描いています」と語るように、描かれている風景は懐かしさを感じさせ、心温まる世界に溢れています。墨の濃淡、筆の力加減などを駆使して望月勅雄によって生み出される、ふるさとの色をぜひお楽しみください。

身延町なかとみ現代工芸美術館

〒409-3301 山梨県南巨摩郡身延町西嶋345 (身延町なかとみ和紙の里内)
TEL 0556-20-4555 FAX 0556-20-4557 身延町HP <https://www.town.minobu.lg.jp/>
和紙の里HP <https://www.town.minobu.lg.jp/washi/> 美術館Twitter @MN_artM

- | | | | |
|------|--------------------------|---|---|
| アクセス | 電車 | JR身延線 ^{※1} 「甲斐岩間駅」下車
・徒歩25分(約2km) | ※1 身延線はJR東海道本線「富士駅」又はJR中央本線「甲府駅」より乗り換え可能
※2 和紙の里無料駐車場あり(普通車55台、バス6台) |
| | 自動車 ^{※2} | <ul style="list-style-type: none"> □中部横断自動車道 六郷ICから約5分 •県道9号線を静岡方面に向かい「峡南橋東詰」交差点を右折 □新東名高速道路 新清水JCTから約40分 •国道52号線を甲府方面に向かい「峡南橋西詰」交差点を左折 | |
| | 高速バス | 中央高速バス 身延新宿線
・新宿駅高速バスターミナルより約3時間 バス停「西嶋」下車 徒歩0分 | |
| | | | |

